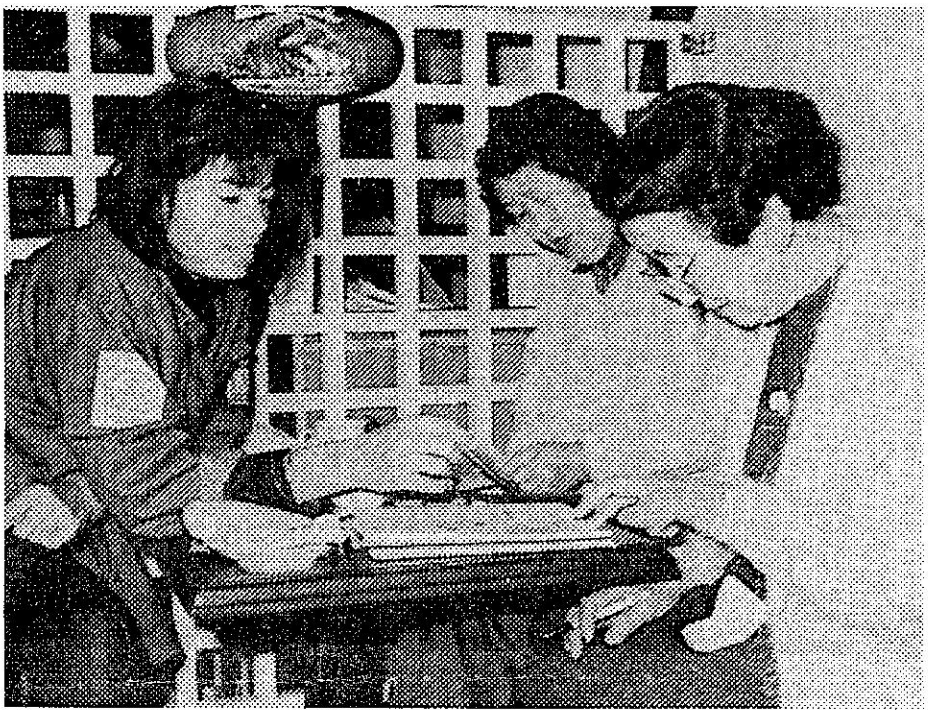
【新聞定価（消費税込み）1カ月3,650円・1部朝刊100円・夕刊50円】　（第3種郵便物認可）

英会話は喫茶店で楽しく

コーヒー、ケーキ付きでレッスン

明石



コーヒーを飲みながら、英会話のレッスンはいかが。明石市内の喫茶店が近所の人らを集め、店を開放して英語教室を続けている。先生は、やはり明石市在住で短大講師のオーストラリア人女性。お茶とお菓子付きのレッスンのモットーは「気軽に楽しく」だが、毎週の宿題に加え、一泊二日の〝英語合宿〟まである本格派だ。

教室を開いているのは同市西明石南町の喫茶店「バレホ」。

明石市の姉妹都市である米国・カリフォルニア州のバレホ市を訪れたことがある店主の島原美智代さんが「日常英会話を楽しく学べる場を」と三年前、手書きのポスターを店先に張り、外国人教師と生徒を募集したのがきっかけ。当初の生徒は近くのお年寄りら三人だけだったが、口コミで広がり、今では二十人ほどに。教室も週一回から、金、土、日の週三回に増やした。教師も現在のシャーロン・エリザベス・ジーさん(三五)で三代目になっている。

テキストは、大学で英文学を修めた島原さんの手作り。若い娘が美容院に予約して注文通りに髪を切ってもらうまでなど日常の生活を描いたマンガを見せ、抜けているセリフを考えさせたり、英訳した新聞の社説英語で発表させるなど、工夫を重ねている。

現在の生徒の年齢層は二十二歳から七十歳代までと幅広く、職業も消防士や会社員、主婦などさまざま。一回の教室は多くても五、六人までと、少数に絞ったレッスンで「先生が身近に感じられる」と評判も上々。レッスン料はコーヒー、ケーキ付きで一回千―二千円で、続けて出席するほど安くなるシステム。

昨年には、一泊二日の合宿を二回実施しており「企業や学校で教えるより、いろんな人がいてとても楽しい。特に活動的な日本のお年寄りには私も励まされる」と先生役のシャーロンさん。生徒の最高齢で、キャリアも一番長い橋本冨士子さん(七四)は「姉妹都市訪問で知り合ったアメリカの友人への手紙も添削してもらっています。ここでは外国語だからといって緊張なんかしません」と話している。今度は生徒たちで英語劇にチャレンジしようと、目下、台本の検討中だ。

先生は豪の女性講師

生徒には70歳代も　合宿もある本格派

喫茶店で英語のレッスンを受ける婦人ら。コーヒーブレイク以外は表情も真剣そのもの＝明石市西明石南町、喫茶「バレホ」